

科目名	観光政策論	科目コード	1225	単位数	3
担当者名	中鉢 令兒	開講セメスター	第5セメスター	開講年次	3年次

● 授業のねらい

観光政策 では、おもに日本の観光政策を中心に展開したが、 では欧米、北欧、アジアインド圏の観光政策を中心に展開する。併せて観光資源の特徴を学ぶ。具体的映像を見て検証しつつ、観光地整備と政策の関わりを理解する。旅行代理店を中心に観光産業に就職希望者は、就活に役立つ基礎知識を修得する。

● 到達目標

海外の観光資源の公共団体の支援と観光資源の質について理解するとともに、観光地の歴史的背景を修得する。こうした知識によって、ガイドではなくインタプリタ としての資質を身につける。東京の観光学部では、撮りこまれていう内容であるので、全国レベルの観光産業従事者を希望する学生は、必須の知識である点を認識すること。

● 授業内容

- 1週目 内容のガイダンス、シンガポールとインパウンド、ハワイとアウトパウンド、日本の観光政策の復習と総括。フランス観光資源の基礎知識
- 2週目 フランスの観光政策：ジッドフランスなど農村休暇村の背景。
- 3週目 パリの観光政策：オスマンの都市改造からミッテランの都市再生。フュゾ 法の理解。
- 4週目 イギリスの観光政策：B&B、グリーンツーリズムの背景の理解。
- 5週目 ロンドンの観光政策：ストラテジビュー、シビクトラストと都市観光、ストラテジビューの理解。
- 6週目 イタリアの都市政策と観光：ガラッソ法の理解。
- 7週目 NZのサスティナブルツーリズム政策：バードサンクチャリーと離島観光の把握。
- 8週目 オーストラリアの観光政策（1）：エコツーリズムの事例：ウルル・カタジュタの観光政策。
- 9週目 オーストラリアの観光政策（2）：観光都市シドニーの枠組み、観光資源ブルーマウンティンの観光手法。
- 10週目 北欧の観光政策：北欧旅券同盟、ハンザ同盟の活用現状の理解。ノルウエーの観光。
- 11週目 ヘルシンキの観光政策と振興の手法：トラム、工場観光の先進国、タリンとの協働観光振興。
- 12週目 アジア文化圏：ヒンドゥー教の祖形と観光振興の取り組み：ネパールの文化形成を学ぶ。特にバクタブルの世界遺産と地域経済、文化保全を中心として。
- 13週目 アジア文化圏：仏教文化と観光の両立：インドネシアのジャワ島(イスラム教)とバリ島(ヒンドゥー教)の並立。
- 14週目 アジア文化圏：発展のキーとして観光産業を活用するミャンマーの現状：ヤンゴンの仏教、バガンの仏教。
- 15週目 ヨ - ロッパの観光都市：バルセロナのガウディ と観光振興。、イスラム文化の痕跡の把握。
- 16週目 観光政策の要点（都市政策、観光政策、地域政策）、期末テスト

● 準備学習(予習・復習)等の内容

適切なテキストは散見されないで、授業中にしっかりと把握する。
出来る限り、ガイドブックで検証する。

● 成績評価の方法・基準

中間、期末考査35% × 2 : 70%
復習問題：15% 授業の積極性：15%
その他の評価システムは、政策論 と同じ

● 履修上の留意点/課題に対するフィードバックの方法

スライドは1回性なので、その場で記憶する。
海外ツアーの企業を目指す人は必須（MARCHと面接で戦えるを前提にした内容）

● テキスト

担当者が現地調査確認した学んだことを根拠にしているので、不読本はなし。

● 参考書

特になし。各国の政府観光局のHPにある程度書いてあるが、英語はまだしもフランス語、スペイン語の熟読は難しい。

● 更新日付

2019/02/02 12:11